

3. 区別の自然動態

(1) 出生率の推移

各区における出生率の推移をみると、昭和50年では阿倍野区を除く23区で10.0人を超える出生率となっており、大正区が18.0人と最も高く、東淀川区17.5人、港区17.4人、此花区17.3人と続いている。

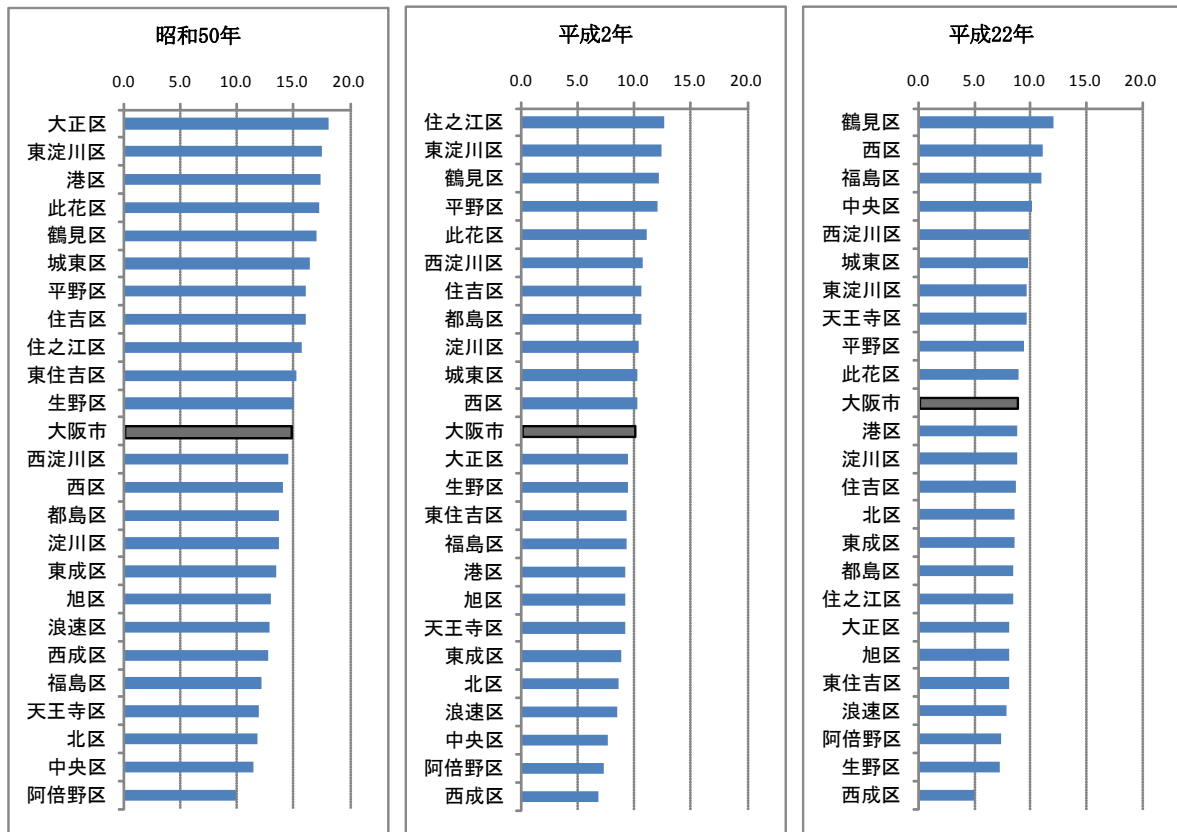
平成2年には10.0人を超える区は24区中11区となり、住之江区の12.6人が最も高く、東淀川区12.4人、鶴見区12.2人と続く。

平成22年では、鶴見区12.0人、西区11.1人、福島区11.0人、中央10.1人の4区が10.0人を超える出生率となっている。昭和50年は大正区、東淀川区などの市内周縁部の区で出生率が高くなっていたが、平成22年では西区、福島区、中央区などの中心部の区で出生率が高くなっている。

※出生率は当年10月1日現在人口1,000人に対する比率である。

図表2-1-3-1
区別の出生率（昭和50年、平成2年、平成22年）

単位：人



※厚生労働省の人口動態統計とは数値が異なる
※平成22年は国勢調査速報による人口で算出

資料：大阪市計画調整局

図表 2-1-3-2

区別の出生率の推移（昭和 50 年～平成 22 年）

単位：人

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
大 阪 市	14.7	11.5	11.2	10.0	9.8	9.6	8.6	8.9
北 区	11.7	11.3	10.8	8.6	7.5	8.0	7.7	8.6
都 島 区	13.7	12.2	13.1	10.6	10.3	8.7	8.4	8.5
福 島 区	12.2	11.5	10.5	9.3	9.3	9.3	9.6	11.0
此 花 区	17.3	12.5	11.8	11.1	10.1	9.6	8.6	8.9
中 央 区	11.4	9.5	9.5	7.6	6.8	7.4	8.1	10.1
西 区	14.0	13.1	13.4	10.2	8.5	10.3	9.1	11.1
港 区	17.4	11.5	11.0	9.2	10.1	9.4	8.1	8.9
大 正 区	18.0	13.1	11.6	9.4	9.6	8.3	8.3	8.1
天 王 寺 区	11.9	9.8	11.0	9.2	8.5	8.1	8.5	9.7
浪 速 区	12.8	10.8	10.6	8.5	8.6	8.0	7.3	7.8
西 淀 川 区	14.6	11.2	11.0	10.7	9.8	11.4	10.5	9.8
淀 川 区	13.6	13.1	11.9	10.3	8.9	9.2	9.4	8.8
東 淀 川 区	17.5	13.5	14.1	12.4	12.2	10.8	9.0	9.7
東 成 区	13.5	10.7	10.2	8.8	8.7	9.7	8.4	8.6
生 野 区	15.1	10.6	10.1	9.4	9.1	8.4	6.9	7.3
旭 区	13.0	10.7	10.3	9.2	8.4	8.7	7.5	8.1
城 東 区	16.5	12.0	11.6	10.2	10.0	10.4	9.4	9.7
鶴 見 区	17.1	12.6	12.4	12.2	12.5	13.8	12.6	12.0
阿 倍 野 区	9.9	9.3	8.6	7.3	7.2	7.6	6.9	7.4
住 之 江 区	15.7	15.3	15.5	12.6	11.1	9.7	8.6	8.5
住 吉 区	16.1	12.5	11.6	10.6	11.1	10.3	9.0	8.7
東 住 吉 区	15.3	10.1	9.5	9.3	9.3	9.5	8.1	8.0
平 野 区	16.1	11.1	10.6	12.0	12.7	12.6	9.8	9.4
西 成 区	12.7	9.0	8.0	6.7	6.1	5.5	4.9	4.9

※厚生労働省の人口動態統計とは数値が異なる
 ※平成 22 年は国勢調査速報による人口で算出

資料：大阪市計画調整局

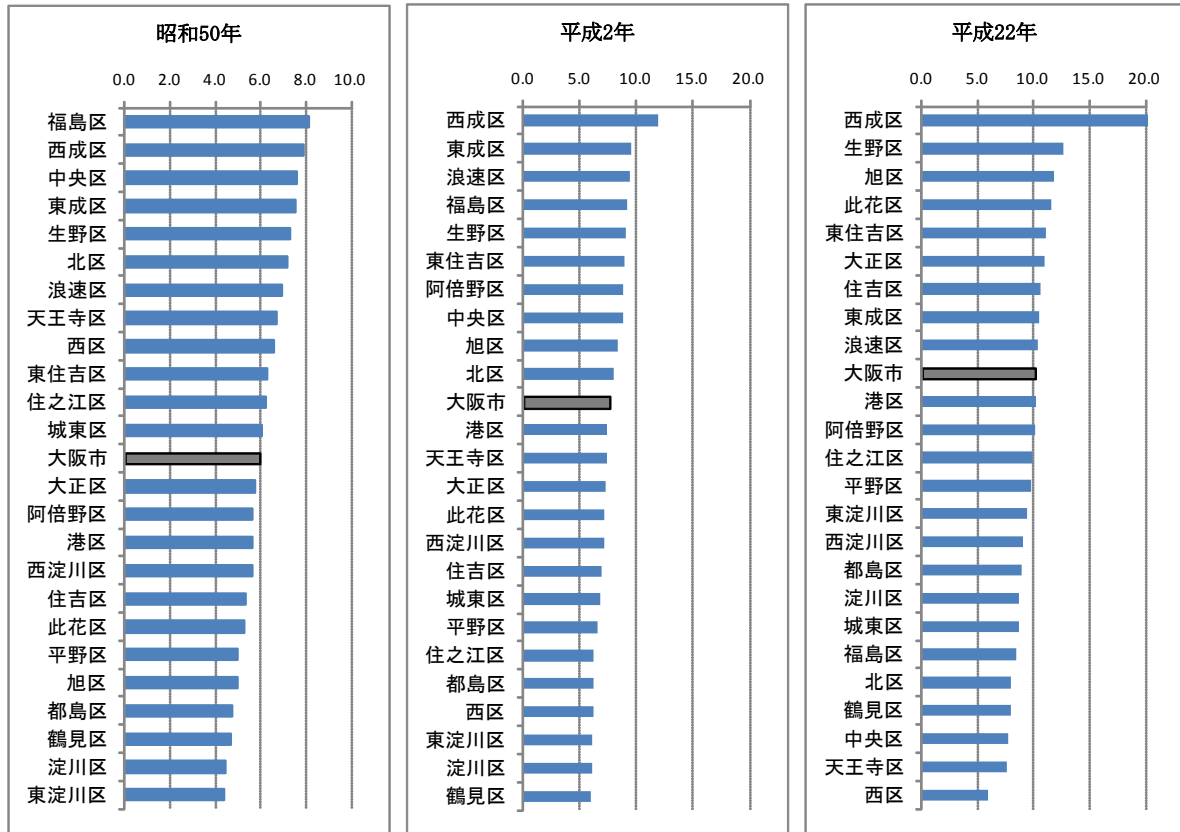
(2) 死亡率の推移

各区における死亡率の推移をみると、昭和 50 年では、福島区が 8.1 人と最も死亡率が高く、続いて西成区 7.9 人、中央区、東成区 7.6 人となっている。平成 2 年では西成区が 11.9 人で最も高くなり、東成区 9.5 人、浪速区 9.4 人と続いている。平成 22 年になると西成区が 20.8 人と突出して死亡率が高くなっており、2 番目に高い生野区が 12.7 人、旭区が 11.8 人などと続いている。

昭和 50 年では福島区が最も死亡率が高いが、死亡率の高い区を他にみると、市内中心部の区が他区と比べて死亡率が高くなっている。平成 2 年では西成区が最も死亡率の高い区となっており、平成 22 年ではさらに死亡率が高くなっている。また、平成 22 年においては、市内中心部の区の死亡率が他区と比べて低くなっており、昭和 50 年と比較すると対照的になっている。

※死亡率は当年 10 月 1 日現在人口 1,000 人に対する比率である。

図表 2-1-3-3 区別の死亡率（昭和50年、平成2年、平成22年） 単位：人



資料：大阪市計画調整局

図表 2-1-3-4 区別の死亡率の推移 単位：人

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
大阪市	6.0	6.8	7.2	7.6	8.3	8.5	9.3	10.1
北区	7.2	8.3	7.9	7.9	8.7	8.3	8.2	8.0
都島区	4.8	6.6	6.7	6.2	7.0	7.1	8.2	8.9
福島区	8.1	8.1	8.9	9.2	8.8	8.3	8.6	8.4
此花区	5.3	6.5	7.0	7.2	8.3	8.6	10.8	11.6
中央区	7.6	8.1	8.4	8.8	9.6	8.9	8.3	7.7
西区	6.5	6.8	5.8	6.2	6.8	6.5	6.3	5.9
港区	5.6	5.9	6.4	7.4	8.2	9.4	10.1	10.1
大正区	5.7	6.5	6.4	7.2	8.2	9.1	10.5	11.0
天王寺区	6.7	7.3	6.9	7.3	7.3	7.3	7.3	7.6
浪速区	7.0	8.8	9.6	9.4	10.0	9.2	9.3	10.3
西淀川区	5.6	6.9	7.3	7.2	8.1	8.4	8.3	9.1
淀川区	4.4	6.2	6.1	6.1	7.2	7.2	7.9	8.7
東淀川区	4.4	5.2	5.9	6.1	6.8	6.9	7.4	9.4
東成区	7.6	8.3	8.6	9.5	9.9	9.5	10.3	10.5
生野区	7.3	7.6	8.3	9.1	9.7	9.9	11.6	12.7
旭区	5.0	6.8	6.9	8.3	8.6	9.2	11.0	11.8
城東区	6.1	6.1	6.6	6.8	7.9	7.8	8.7	8.7
鶴見区	4.7	5.1	5.6	5.9	6.1	6.2	7.0	8.0
阿倍野区	5.6	8.2	8.1	8.9	9.7	8.8	9.8	10.1
住之江区	6.2	6.1	6.1	6.2	6.7	7.7	9.3	9.9
住吉区	5.4	5.9	6.8	7.0	7.6	8.1	9.3	10.6
東住吉区	6.3	7.5	7.8	8.9	8.9	9.6	10.0	11.1
平野区	5.0	5.1	5.6	6.5	7.1	7.6	8.5	9.7
西成区	7.9	9.6	10.9	11.9	14.3	14.7	16.5	20.8

※厚生労働省の人口動態統計とは数値が異なる
 ※平成22年は国勢調査速報による人口で算出

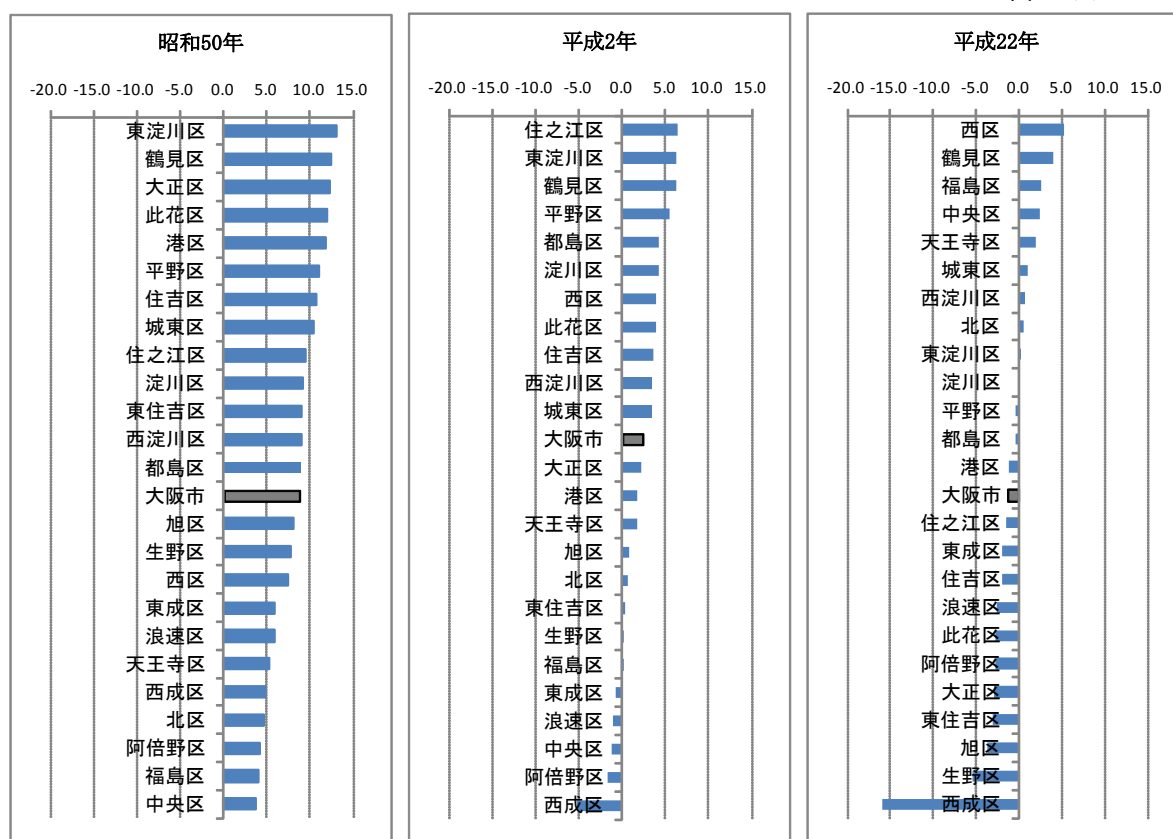
資料：大阪市計画調整局

(3) 自然増減率の推移

各区における自然増減率の推移をみると、昭和50年では、全ての区が自然増加となっており、東淀川区13.1人、続いて鶴見区12.4人、大正区12.3人などとなっている。平成2年になると、西成区△5.2人、阿倍野区△1.6人など5区が自然減少となるが、住之江区6.4人、東淀川区6.3人、鶴見区6.2人などは自然増加が続き、大阪市全体では自然増加を維持していた。平成22年になると14区で自然減少となっており、なかでも西成区が△15.9人と突出して自然減少率が高くなっている。

※自然増減率は当年10月1日現在人口1,000人に対する比率である。

図表2-1-3-5
区別の自然増減率（昭和50年、平成2年、平成22年）



※厚生労働省の人口動態統計とは数値が異なる
※平成22年は国勢調査速報による人口で算出

資料：大阪市計画調整局

図表 2-1-3-6 区別の自然増減率の推移

単位：人

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
大 阪 市	8.8	4.7	4.1	2.4	1.4	1.1	△ 0.7	△ 1.2
北 区	4.6	3.0	2.9	0.6	△ 1.2	△ 0.3	△ 0.6	0.6
都 島 区	8.9	5.6	6.4	4.3	3.3	1.6	0.1	△ 0.4
福 島 区	4.1	3.4	1.7	0.1	0.5	0.9	1.0	2.6
此 花 区	12.0	6.0	4.8	3.9	1.8	1.0	△ 2.2	△ 2.7
中 央 区	3.8	1.4	1.1	△ 1.2	△ 2.8	△ 1.4	△ 0.3	2.4
西 区	7.5	6.3	7.6	4.0	1.8	3.8	2.8	5.2
港 区	11.8	5.6	4.6	1.8	1.9	0.1	△ 2.0	△ 1.2
大 正 区	12.3	6.7	5.2	2.2	1.4	△ 0.7	△ 2.2	△ 2.9
天 王 寺 区	5.2	2.5	4.2	1.8	1.2	0.8	1.2	2.0
浪 速 区	5.9	2.0	1.0	△ 1.0	△ 1.3	△ 1.2	△ 2.0	△ 2.5
西 淀 川 区	8.9	4.3	3.6	3.5	1.6	2.9	2.2	0.7
淀 川 区	9.2	6.8	5.8	4.2	1.7	2.0	1.5	0.1
東 淀 川 区	13.1	8.3	8.2	6.3	5.4	3.9	1.6	0.3
東 成 区	5.9	2.3	1.6	△ 0.7	△ 1.2	0.2	△ 1.9	△ 1.9
生 野 区	7.8	2.9	1.8	0.3	△ 0.6	△ 1.5	△ 4.7	△ 5.5
旭 区	8.0	3.9	3.4	0.9	△ 0.2	△ 0.5	△ 3.5	△ 3.7
城 東 区	10.4	5.9	5.0	3.4	2.2	2.6	0.7	1.1
鶴 見 区	12.4	7.5	6.9	6.2	6.5	7.7	5.6	4.0
阿 倍 野 区	4.2	1.1	0.5	△ 1.6	△ 2.5	△ 1.2	△ 2.9	△ 2.7
住 之 江 区	9.5	9.1	9.4	6.4	4.5	2.0	△ 0.7	△ 1.4
住 吉 区	10.7	6.5	4.9	3.6	3.5	2.2	△ 0.4	△ 1.9
東 住 吉 区	9.0	2.6	1.7	0.4	0.4	△ 0.1	△ 1.9	△ 3.0
平 野 区	11.1	6.0	5.1	5.5	5.6	5.1	1.4	△ 0.4
西 成 区	4.8	△ 0.6	△ 2.9	△ 5.2	△ 8.2	△ 9.2	△ 11.6	△ 15.9

※厚生労働省の人口動態統計とは数値が異なる
 ※平成 22 年は国勢調査速報による人口で算出

資料：大阪市計画調整局

(4) 生涯未婚率

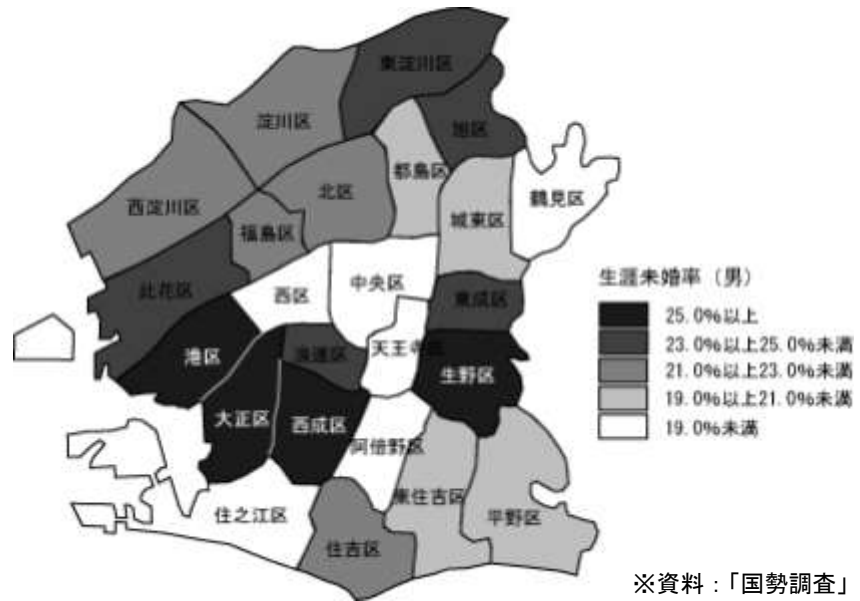
各区における平成 17 年の生涯未婚率をみると、男では、西成区が 40.1%と最も高く、大正区 26.4%、港区 25.1%と続く。男の生涯未婚率が高い区は、市中心部を取り巻く形となっている。

一方、女の生涯未婚率をみると、北区が 17.7%と最も高く、福島区 16.6%、中央区 16.2%と続く。市中心部に女の生涯未婚率が高い区が多い。

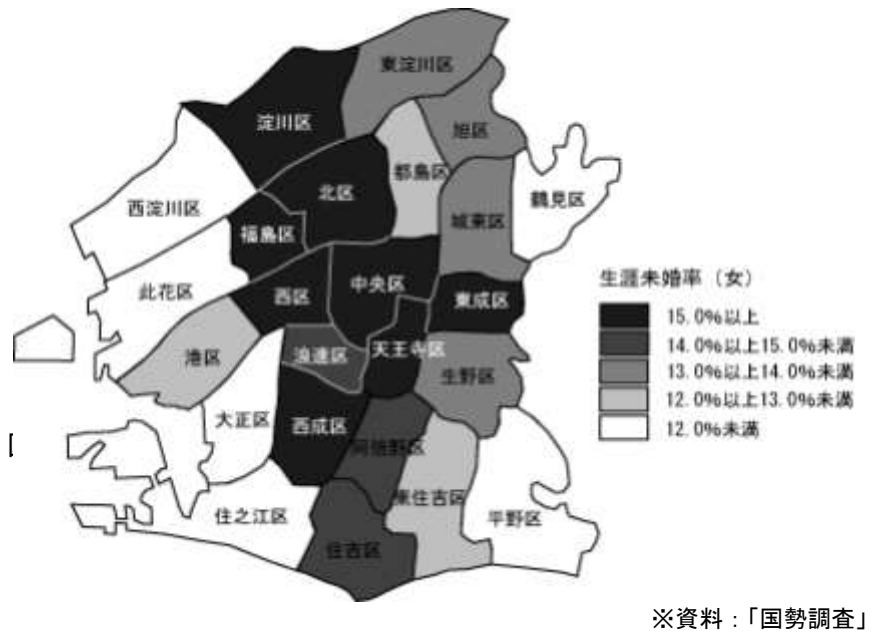
中央区、西区、天王寺区は、男の生涯未婚率が低く、女の生涯未婚率が高い。北区、福島区は、男の生涯未婚率は市内平均値と概ね同様であるが、女の生涯未婚率が高い。此花区、大正区は男の生涯未婚率が高く、女の生涯未婚率は低い。鶴見区、住之江区、平野区では男女とも生涯未婚率が低い。また、西成区については男の生涯未婚率が特に高い。

※生涯未婚率：「45～49 歳」と「50～54 歳」未婚率の平均値から、「50 歳時」の未婚率（結婚したことがない人の割合）を算出したもの。

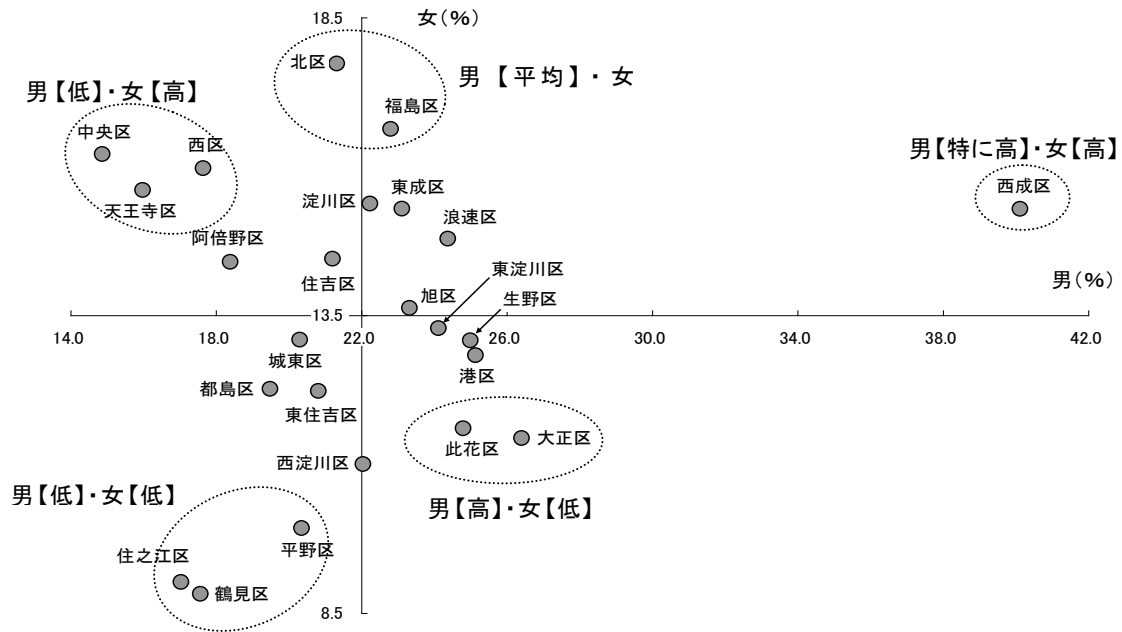
図表 2-1-3-7
各区の生涯未婚率（男）（平成 17 年）



図表 2-1-3-8
各区の生涯未婚率（女）（平成 17 年）



図表 2-1-3-9 生涯未婚率の区別分布図



図表 2-1-3-10 各区の生涯未婚率（平成 17 年）単位（％）

	男	順位		女	順位
西成区	40.1	1	北区	17.7	1
大正区	26.4	2	福島区	16.6	2
港区	25.1	3	中央区	16.2	3
生野区	25.0	4	西区	16.0	4
此花区	24.8	5	天王寺区	15.6	5
浪速区	24.4	6	淀川区	15.4	6
東淀川区	24.1	7	東成区	15.3	7
旭区	23.3	8	西成区	15.3	8
東成区	23.1	9	浪速区	14.8	9
福島区	22.8	10	住吉区	14.5	10
淀川区	22.2	11	阿倍野区	14.4	11
西淀川区	22.0	12	旭区	13.6	12
北区	21.3	13	東淀川区	13.3	13
住吉区	21.2	14	城東区	13.1	14
東住吉区	20.8	15	生野区	13.1	15
平野区	20.3	16	港区	12.8	16
城東区	20.3	17	都島区	12.3	17
都島区	19.5	18	東住吉区	12.2	18
阿倍野区	18.4	19	此花区	11.6	19
西区	17.6	20	大正区	11.4	20
鶴見区	17.6	21	西淀川区	11.0	21
住之江区	17.0	22	平野区	9.9	22
天王寺区	16.0	23	住之江区	9.0	23
中央区	14.9	24	鶴見区	8.8	24

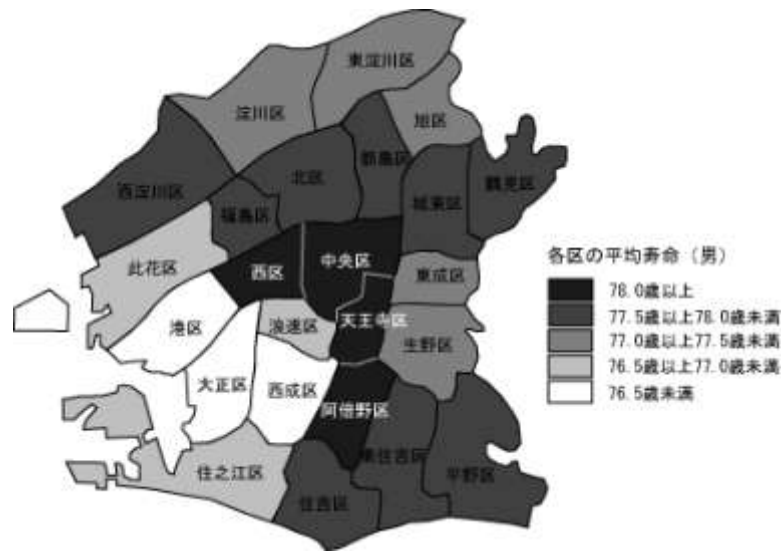
資料：「国勢調査」

(5) 平均寿命

各区における平均寿命をみると、男では、西区が78.9歳と最も平均寿命が長く、天王寺区78.5歳、阿倍野区78.3歳と続く。男の平均寿命の長い区は、市中心部および東側に多く、臨海部は市内で比較すると平均寿命が短い。

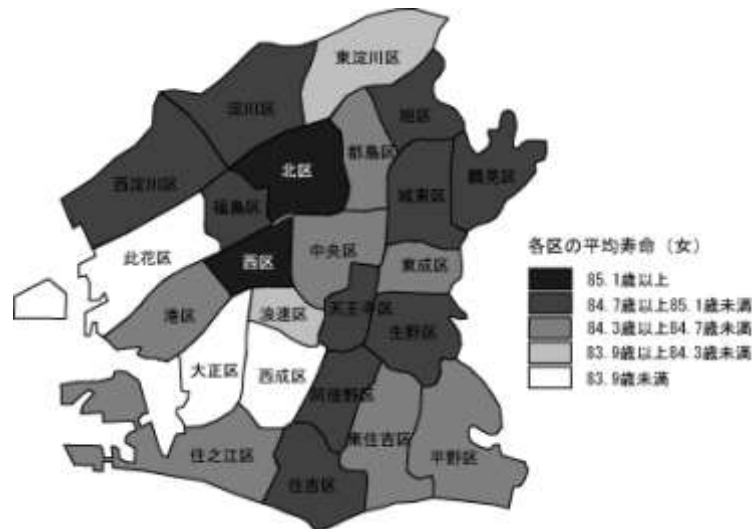
一方、女の平均寿命をみると、西区が85.6歳と最も長く、北区85.1歳、天王寺区85.0歳と続く。臨海部は比較的平均寿命が短い。西区は、男女とも平均寿命が長く、西成区、大正区は、男女とも平均寿命が比較的短い。

図表2-1-3-11 各区の平均寿命（男）



※平成17年時点 資料：厚生労働省「生命表」

図表2-1-3-12 各区の平均寿命（女）



※平成17年時点 資料：厚生労働省「生命表」

図表 2-1-3-13

各区の平均寿命（平成 17 年）

単位：（歳）

順位		男		女
1	西区	78.9	西区	85.6
2	天王寺区	78.5	北区	85.1
3	阿倍野区	78.3	天王寺区	85.0
4	中央区	78.1	阿倍野区	85.0
5	北区	77.9	住吉区	84.9
6	福島区	77.8	生野区	84.9
7	東住吉区	77.8	福島区	84.8
8	都島区	77.7	城東区	84.8
9	城東区	77.6	鶴見区	84.8
9	西淀川区	77.6	淀川区	84.8
11	住吉区	77.5	旭区	84.8
11	鶴見区	77.5	西淀川区	84.7
11	平野区	77.5	中央区	84.5
14	淀川区	77.3	東住吉区	84.5
15	旭区	77.2	都島区	84.5
15	東淀川区	77.2	平野区	84.4
17	生野区	77.1	東成区	84.4
17	東成区	77.1	住之江区	84.3
19	此花区	76.6	港区	84.3
20	住之江区	76.5	東淀川区	84.1
20	浪速区	76.5	浪速区	84.0
22	大正区	76.3	此花区	83.9
23	港区	75.9	大正区	83.5
24	西成区	73.1	西成区	83.3

資料：厚生労働省「生命表」

4. 区別の社会動態

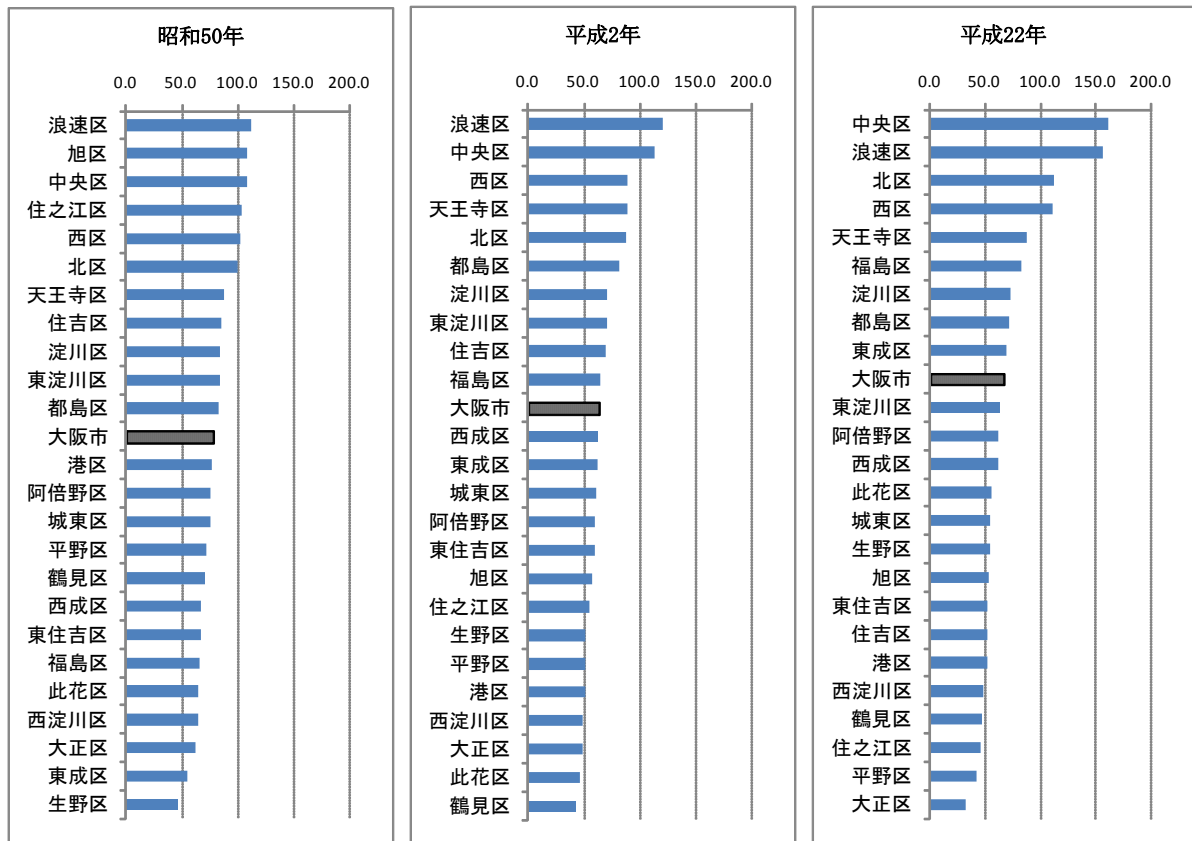
(1) 転入率の推移

各区における転入率の推移をみると、昭和50年では、浪速区が112.2人と最も高く、続いて旭区108.3人、中央区107.9人となっている。平成2年でも浪速区が120.5人で最も高く、中央区113.2人、西区88.7人と続いている。平成22年になると中央区160.9人、浪速区が155.8人などとなっている。浪速区、中央区は他の区と比べるといずれの年も高い転入率となっている。

昭和50年時点でも市内中心部の区が比較的転入率が高くなっているが、平成22年ではその傾向がより強くなっている。

※転入率は当年10月1日現在人口1,000人に対する比率である。

図表2-1-4-1
区別の転入率（昭和50年、平成2年、平成22年）



※住民基本台帳移動報告とは数値が異なる
※平成22年は国勢調査速報による人口で算出

資料：大阪市計画調整局

図表 2-1-4-2 区別の転入率の推移

単位：%

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
大阪市	77.3	69.8	67.6	63.7	71.5	69.9	67.5	66.0
北区	99.4	105.8	98.4	87.4	96.3	102.5	114.2	111.3
都島区	82.8	90.1	95.8	82.0	78.8	73.9	63.4	71.6
福島区	65.8	64.0	65.4	64.2	75.9	84.3	87.0	82.5
此花区	64.0	47.6	46.0	45.9	51.5	48.8	47.0	55.1
中央区	107.9	126.0	115.6	113.2	127.2	148.4	175.0	160.9
西区	101.5	109.5	101.4	88.7	103.1	107.6	111.1	110.4
港区	76.3	52.3	49.0	50.6	57.6	57.3	58.1	51.2
大正区	61.9	50.2	47.2	48.3	43.6	41.2	36.3	31.8
天王寺区	88.0	91.0	88.1	88.3	96.0	97.4	102.3	87.6
浪速区	112.2	102.2	102.4	120.5	119.4	129.0	152.7	155.8
西淀川区	63.9	65.7	64.6	49.2	58.0	64.2	51.7	47.4
淀川区	84.2	92.4	79.8	70.8	87.6	80.6	80.6	72.3
東淀川区	83.4	74.5	77.3	70.2	80.4	68.2	61.7	63.1
東成区	55.3	51.5	56.9	61.6	69.8	72.5	73.1	69.2
生野区	45.8	41.5	44.7	51.3	53.7	54.1	53.2	54.1
旭区	108.3	64.2	52.1	56.7	66.8	56.8	51.9	53.2
城東区	74.8	69.4	62.1	60.2	74.1	70.8	61.0	54.4
鶴見区	70.9	60.4	58.3	42.8	59.3	62.3	50.7	46.8
阿倍野区	75.6	64.7	68.1	59.4	71.7	70.7	66.2	61.4
住之江区	102.8	95.3	78.1	54.2	56.9	52.3	45.3	45.8
住吉区	85.5	74.1	72.5	69.0	74.6	66.0	57.3	51.3
東住吉区	66.9	53.8	58.0	59.1	65.1	59.2	55.7	51.4
平野区	72.2	52.6	48.1	51.1	57.1	50.9	46.0	41.3
西成区	67.2	62.3	63.2	62.3	68.7	72.5	56.3	61.2

※住民基本台帳移動報告とは数値が異なる

資料：大阪市計画調整局

※平成 22 年は国勢調査速報による人口で算出

(2) 転出率の推移

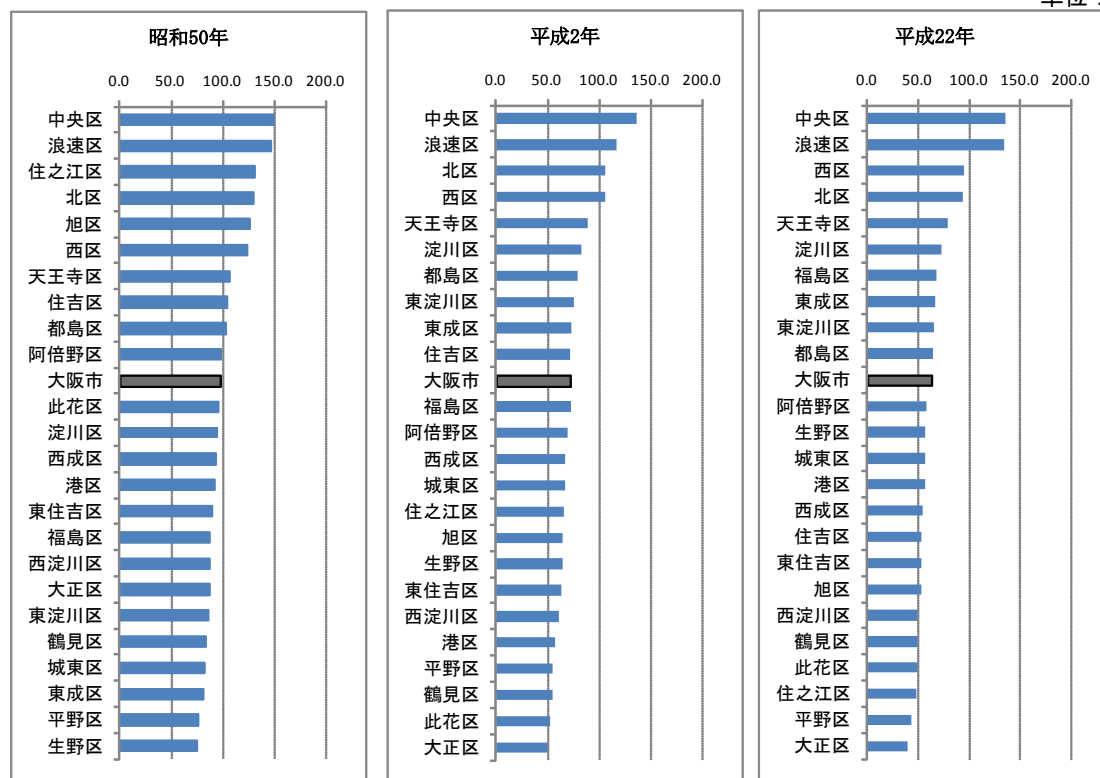
各区における転出率の推移をみると、昭和 50 年では中央区が 148.5 人で最も高く、続いて浪速区が 146.9 人、住之江区が 131.2 人となっている。平成 2 年でも中央区が 136.3 人、浪速区が 116.5 人と高く、北区が 106.2 人と続く。平成 22 年においても中央区が 135.0 人、浪速区が 134.3 人と高く、西区が 95.3 人と続いている。

※転出率は当年 10 月 1 日現在人口 1,000 人に対する比率である。

図表 2-1-4-3

区別の転出率の推移（昭和50年、平成2年、平成22年）

単位：％



資料：大阪市計画調整局

図表 2-1-4-4 区別の転出率の推移

単位：％

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
大阪市	96.8	81.8	69.8	71.3	71.0	69.4	64.1	63.2
北区	129.9	106.2	106.1	106.2	93.3	91.5	87.2	93.1
都島区	102.6	86.4	71.9	78.8	78.6	75.1	64.9	63.6
福島区	87.0	80.1	68.4	71.2	70.8	72.0	64.5	67.6
此花区	95.5	77.8	54.5	52.8	55.2	57.1	55.4	48.8
中央区	148.5	134.4	129.8	136.3	122.7	125.8	134.3	135.0
西区	123.8	100.0	94.5	105.7	97.3	89.0	91.5	95.3
港区	91.9	77.1	61.8	57.4	64.1	64.4	56.8	56.3
大正区	86.6	65.4	54.6	50.2	50.6	49.0	40.4	39.8
天王寺区	106.7	99.1	89.3	88.6	87.3	83.8	79.4	79.1
浪速区	146.9	113.1	104.3	116.5	120.3	120.2	124.9	134.3
西淀川区	86.7	68.7	55.2	60.7	64.9	54.8	52.3	49.6
淀川区	94.9	88.8	84.3	82.8	82.3	75.9	70.6	72.3
東淀川区	86.1	85.3	73.9	74.8	76.4	77.0	70.3	64.7
東成区	80.5	72.0	64.8	73.3	73.9	73.1	68.7	66.4
生野区	74.8	68.7	54.1	64.1	60.3	61.5	57.6	56.5
旭区	125.7	79.0	64.3	64.2	65.7	64.0	55.9	52.5
城東区	82.3	75.8	63.8	67.3	69.2	67.7	56.6	56.5
鶴見区	82.7	76.0	56.1	54.8	58.3	60.4	52.3	49.1
阿倍野区	98.1	86.8	69.5	69.8	69.1	62.4	61.3	57.4
住之江区	131.2	77.0	61.9	65.6	64.8	60.3	53.1	47.4
住吉区	103.5	95.2	79.4	71.5	71.9	68.3	59.2	53.5
東住吉区	89.8	78.3	62.5	63.7	65.1	64.8	57.1	52.7
平野区	76.4	63.6	54.3	54.8	57.2	55.2	47.2	43.3
西成区	92.8	77.1	65.0	67.4	62.2	64.5	57.3	54.3

※住民基本台帳移動報告とは数値が異なる

資料：大阪市計画調整局

※平成22年は国勢調査速報による人口で算出 131

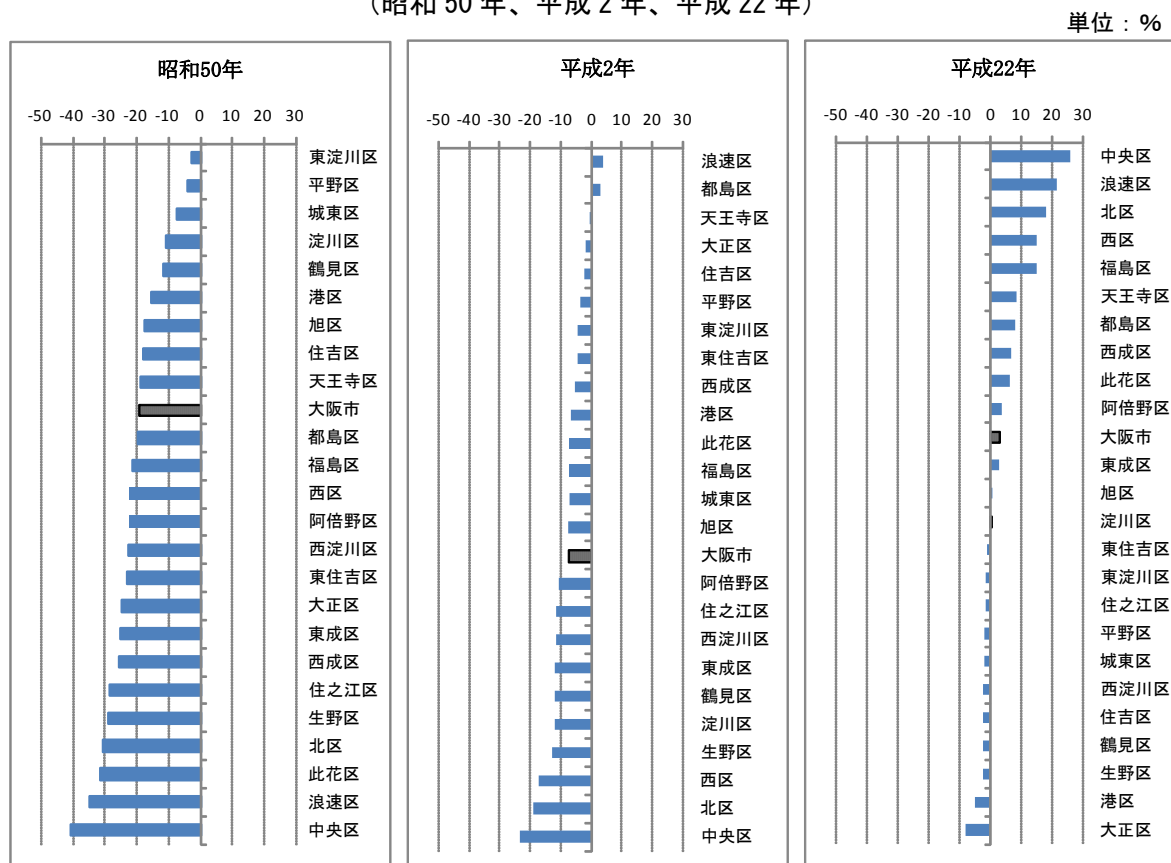
(3) 社会増減率の推移

区別の社会増減率の推移をみると、昭和50年では全ての区で社会減少となっており、特に中央区40.6人、浪速区34.7人などの市内中心部の区で社会減少が大きくなっていました。平成2年になると、社会減少率は全体的に縮小し、浪速区4.0人、都島区3.2人と2区が社会増加となった。さらに平成22年には中央区、浪速区、北区、西区など、市内中心部で社会増加率が高く、大阪市全体で社会増加に転じている。

その他、西区、北区、天王寺区などの市中心部の区では、転入率、転出率ともに高い結果となっているが、転入率の方が高いため人口は増加している。

※社会増減率は当年10月1日現在人口1,000人に対する比率である。

図表2-1-4-5 区別の社会増減率
(昭和50年、平成2年、平成22年)



※住民基本台帳移動報告とは数値が異なる
※平成22年は国勢調査速報による人口で算出

資料：大阪市計画調整局

図表 2-1-4-6 区別の社会増減率の推移

単位：%

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
大阪市	△ 19.5	△ 12.1	△ 2.2	△ 7.7	0.5	0.5	3.4	2.8
北区	△ 30.6	△ 0.4	△ 7.8	△ 18.7	3.0	11.0	27.0	18.2
都島区	△ 19.8	3.7	23.9	3.2	0.1	△ 1.2	△ 1.5	8.0
福島区	△ 21.2	△ 16.1	△ 3.0	△ 7.0	5.1	12.2	22.5	14.9
此花区	△ 31.5	△ 30.2	△ 8.5	△ 6.9	△ 3.8	△ 8.3	△ 8.4	6.3
中央区	△ 40.6	△ 8.5	△ 14.1	△ 23.1	4.5	22.6	40.6	25.9
西区	△ 22.3	9.4	6.9	△ 17.1	5.8	18.6	19.6	15.1
港区	△ 15.6	△ 24.8	△ 12.7	△ 6.8	△ 6.5	△ 7.1	1.3	△ 5.1
大正区	△ 24.7	△ 15.2	△ 7.3	△ 1.9	△ 7.0	△ 7.8	△ 4.1	△ 7.9
天王寺区	△ 18.8	△ 8.1	△ 1.2	△ 0.3	8.8	13.6	22.9	8.4
浪速区	△ 34.7	△ 10.9	△ 1.9	4.0	△ 0.9	8.8	27.9	21.5
西淀川区	△ 22.8	△ 3.0	9.4	△ 11.5	△ 6.9	9.4	△ 0.6	△ 2.1
淀川区	△ 10.7	3.6	△ 4.5	△ 12.0	5.3	4.7	10.0	0.0
東淀川区	△ 2.6	△ 10.8	3.4	△ 4.6	4.0	△ 8.8	△ 8.6	△ 1.6
東成区	△ 25.2	△ 20.5	△ 8.0	△ 11.7	△ 4.1	△ 0.6	4.4	2.8
生野区	△ 28.9	△ 27.2	△ 9.3	△ 12.8	△ 6.6	△ 7.4	△ 4.4	△ 2.4
旭区	△ 17.4	△ 14.8	△ 12.1	△ 7.5	1.1	△ 7.2	△ 4.0	0.7
城東区	△ 7.5	△ 6.4	△ 1.7	△ 7.1	4.8	3.2	4.4	△ 2.0
鶴見区	△ 11.8	△ 15.7	2.2	△ 12.0	1.0	1.9	△ 1.7	△ 2.3
阿倍野区	△ 22.5	△ 22.1	△ 1.4	△ 10.4	2.6	8.3	4.9	4.0
住之江区	△ 28.4	18.3	16.2	△ 11.4	△ 7.9	△ 8.0	△ 7.8	△ 1.6
住吉区	△ 18.0	△ 21.1	△ 6.8	△ 2.4	2.6	△ 2.3	△ 1.8	△ 2.1
東住吉区	△ 22.8	△ 24.5	△ 4.5	△ 4.6	△ 0.1	△ 5.6	△ 1.4	△ 1.2
平野区	△ 4.2	△ 11.0	△ 6.2	△ 3.7	△ 0.1	△ 4.2	△ 1.2	△ 2.0
西成区	△ 25.6	△ 14.8	△ 1.8	△ 5.1	6.5	8.0	△ 1.0	7.0

※住民基本台帳移動報告とは数値が異なる

資料：大阪市計画調整局

※平成 22 年は国勢調査速報による人口で算出